


## 海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	田上 恵太 
所属機関	東北大学大学院 医学系研究科 緩和医療学分野
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に従事した外国の研究機関名</li> <li>・参加した国際学会・会議名</li> </ul>	MASCC/ISOO 2018 Annual Meeting on Supportive Care in Cancer * MASCC: Multinational Association of Supportive Care in Cancer ISOO; International Society of Oral Oncology
渡航期間	自 2018年6月26日 至 2018年7月2日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容</li> <li>・国際学会・会議内容</li> </ul>	e-poster presentation
<p>研究成果 （ 要約：800字 ）</p> <p>がん患者の症状緩和の質の担保が生活の質に影響することについて量的な解析を行い、「Correlation of health-related quality of life with quality of symptom management: based on personalized symptom goals in outpatient palliative care setting (がん患者の症状マネジメントを行う際には、患者自身が効果を判定する患者報告アウトカム)」の題で研究発表を行った。本研究は、近年 MD アンダーソンがんセンターで開発された personalized symptom goal と呼ばれる患者報告アウトカムを用いた症状緩和の質の評価の指標と、生活の質の量的指標を用いて解析を行った、世界で初めての研究であった。personalized symptom goal はがん患者に苦痛を生じうる複数の主要な症状の症状緩和の質を患者報告アウトカムでそれぞれ評価するものである。本研究は、症状緩和の質の担保が生活の質の担保に影響を及ぼすことを示したものだけではなく、がん患者に生じている症状緩和が不十分な複数の症状をスクリーニングしていくことの重要性を示唆する予備データになることを、聴衆・座長、および Personalized symptom goal の開発者との意見交換で確認した。現在、本邦のがん診療連携拠点病院を中心に行っている「がん診断時からの苦痛のスクリーニング」は、がん患者の生活の質を担保する上で非常に重要なものになることが示唆される結果となった。</p> <p>がん患者の症状緩和の質の担保やスクリーニングの重要性の啓発になるべく、今後本研究の結果は速やかに英語論文として国際雑誌に投稿していく予定である。また、今後行われる各研究において、personalized symptom goal を症状緩和の質の評価指標として用いていくことが予想されている。</p>	